

ヴォリュームアキュライザーの導入(4)

— Ex Pro SV-1 への適用(1) —

1. 始めに

前報(3)に引き続き、ヴォリュームアキュライザーVRA-7をパッシブアテネーターの Ex Pro SV-1 に適用してみます。

2. ヴォリュームアキュライザーVRA-7の試聴方法

今回は、アナログ音源でVRA-7の効果を確認します。

LINN LP-12→(フォノケーブル)→(アンバランス/バランス変換プラグ)→
(BACU-2000) →Model120(バランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバ
ランスケーブル)→(AACU-1000)→TruPhase→(AACU-1000)→(アンバランスケー
ブル)→Ex Pro SV-1→(アンバランスケーブル)→Langevin 6V6pp

この Ex Pro SV-1 のヴォリュームに両面テープでVRA-7を貼りつけます。VRA-7を貼る前は、レゾナンスチップを貼っていますが、これを除いてVRA-7に張り替えます。Ex Pro SV-1は、サブシステムのパワーアンプとスピーカーの切り替えに介在させるもので、巻き線抵抗のヴォリュームを持っています。なお、Langevin 6V6ppにもヴォリュームがありますが、ほぼ全開の近い条件になっています。また、SV-1のヴォリュームは全開とし、音量調整はTruPhaseで行っています。



音源は、前報(2)と同様に聴きなれた下記を使用しました。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein

ドイツグラモフォン MG9551

三つのピアノソナタ (選帝侯のソナタ)

ゲザ・アンダ (ピアノ)

LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)

リヒヤルト・ワーグナー：ワルキューレ全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル

Angel (東芝 EMI) AA 9117・C

ゲオルグ・フードリッヒ・ヘンデル：メサイア

オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

SOMETHIN'COOL SCLP-1055

Misty for Direct Cutting

TSUYOSHI YAMAMOTO TRIO

3. ヴォリュームアキュライザーVRA-7の試聴結果

前報(3)のテストの後、TruPhase から VRA-7 を剥がすと、粘着テープは TruPhase のヴォリューム側に残ってしまい、VRA-7 側は粘着性を失っていたので、VRA-7 の接着面にテープの離型剤が転写されたものと判断し、VRA-7 の接着面を消毒用アルコールで清掃し、予備としてついてきた粘着シートを使用せず、市販のゴム系の両面接着テープを切って使ってみました。なお、粘着性を失ったシートの表面は消毒用アルコールを浸した綿棒でこすると粘着性が回復しました。

ZANDEN Model 120 の設定条件は、これまでの経験の条件を採っています。

今回も VRA-7 を適用すると前報(2)と同じ方向の変化が認められました。以下の印象は前報(2)と同じになってしまいました。

バッハのソナタとパルティータでは、ミルシュテインのヴァイオリンの美音はそのままだに、音に膨らみと張りが出てきます。

選帝侯のソナタでは、アンダのピアノの美音はそのままだに、スケールが一回り大きくなったような印象です。

ワルキューレでは、弦楽合奏も金管も伸び伸びと鳴り、ソプラノやメゾソプラノの声の張り揚げ方が違ってきます。

メサイアでは、ハレルヤコーラスの分離が良くなり、迫力が出て、弦楽合奏の艶が出ますし、シュワルツコップの声の張りが伸びやかになります。

Misty ではピアノのアタック感が強くなり、ドラムの皮が乾いた感じになります。全般的に、音圧が上がったように感じます。

前報(2)の TruPhase との違いは、TruPhase の方への適用ではより透明感があり、音の出方がストレートなことです。しかし、古い製品である SV-1 が生き返ったことは大きなメリットです。

パワーアンプにもヴォリュームがあり、スピーカーの再生パフォーマンス向上には効果が限定的ではないかという懸念もありましたが、結果はそんな心配を払拭してくれました。特に顕著な効果を感じるのは、前報(2)と同様、大編成もので音の構

成が複雑な曲です。前報(2)と同様、単に受動機器のパッシブアテネーターへの適用ですが、パワーアンプの駆動特性が変わったような印象です。

4. まとめ

ExPro SV-1 のヴォリュームへの適用により、アナログ再生における **VRA-7** の効果を認めました。

以上